

ベトナム電力計画改定、再生可能エネルギー主軸へ転換

2025年5月6日 作成

カテゴリー ベトナム市場調査 再生可能エネルギー

ベトナム電力計画改定、再生可能エネルギー主軸へ転換

2024 年末に改定された「第 8 次ベトナム電力開発計画（PDP8）」では、エネルギー安全保障と経済成長支援を両立させる方針が明確化された。再生可能エネルギーの最大限活用が中心戦略となり、2030 年までに風力発電 20,000～38,000MW、太陽光発電 46,000～73,000MW を導入する。

バイオマス発電や廃棄物発電も積極推進し、総発電容量 183,000～236,000MW を目指す。洋上風力は国内需要向けに最大 17,000MW、さらに輸出向け拡大も視野に入れる。2050 年には総発電容量を 770,000～840,000MW へ拡大し、太陽光、風力、蓄電池の比率が半数以上を占める構成を計画する。火力発電は段階的に縮小し、石炭火力は 2050 年にゼロ化、LNG 火力も水素燃料への転換を推進する。

原子力発電は 2030 年代から段階的に導入し、2050 年には最大 14,000MW まで拡大予定である。輸出電力も拡大し、2035 年には最大 10,000MW を周辺国に供給する計画である。ベトナムは再生可能エネルギー大国への転換を目指し、持続可能なエネルギーシステム構築に向けた実行力強化が求められている。

以上